

さかわ通信



HIGH LIGHT

歌声チャペル



酒匂キリスト教会には、「歌声チャペル」という楽しい集いがあります。季節の歌、童謡、唱歌、懐メロも歌います。先日、竹内まりやの『いのちの歌』を歌いました。その中に、「生まれてきたこと、育ててもらえたこと、出会ったこと、笑ったこと、そのすべてをありがとう、この命にありがとう」とあって、涙を浮かべて感謝を味わう場面がありました。歌には力があります。伝えられないことを言ってくれたり、気づかせてくれたり、心をきよくし、励ましてくれます。歌にまつわる思い出を語り合い、時間はあっという間に過ぎていきます。最後に、讃美歌を紹介し、神さまの大きな愛にふれさせていただきます。ぜひお越し下さい。

毎月第四火曜日、14時～15時半
 次回は3月24日(火)

「礼拝に行ってもいいですか」

Q) クリスマンではありませんが、礼拝に行ってもいいですか？

A) もちろん大丈夫です。礼拝は、神さまの愛にふれる静かな時間です。心が落ち着き、新しい力がわいてくるひとききになるでしょう。

Q) クリスマンになる必要はありますか？

A) 心配はいりません。クリスマンでない方も気軽に参加されています。

Q) 一度行ったら、抜けられなくなりませんか？

A) きちんとした教会は、しつこい勧誘をしません。安心してお越しください。

Q) 献金が不安です。

A) 献金は、神さまへの感謝をあらわすものです。よく分からないうちは献金しなくても問題ありません。強制もありませんのでどうぞ安心して礼拝にお越しください。

認知症カフェ

「かふえ・えりむ」

認知症の当事者の方やご家族が安心して集い、語り合える場として開かれています。

小田原市高齢介護課、市社会福祉協議会、福祉の専門家たちと連携して行っており相談ができます。認知症でない方もご参加いただけます。興味のある方、参加をご希望の方は教会までご連絡ください。TEL 47-3282



場所

小田原クリスマンセンター

(JR小田原駅西口徒歩3分 竹田整形隣り)

日時 2月20日(金)
13時半～15時半

酒匂キリスト教会 集会案内



- 礼拝 日曜日 11時～12時10分
- JoyJoy礼拝(日曜学校) 10時～10時40分
- ふれあいカフェ 第二火曜 11時半～14時
- 歌声チャペル 第四火曜 14時～15時半
- ぶどうの木(祈祷会)木曜 10時～11時40分
- 聖書講座 お問合せください



人は変われると信じ抜く

牧師 勝俣慶信

■レ・ミゼラブル

時は1815年のフランス。姉の子どもたちのために1斤のパンを盗んで牢へ入れられ、子どもたちを養うために脱獄を試みては捕まり、刑が加算され19年もの服役を終えて出所してくるジャン・バルジャン。刑務官ジャベールはバルジャンに前科者の印である黄色い身分証を渡しながらか、「お前は前科者だ。罪人はどこまでいっても罪人だ」と言い放つ。「仮釈放なのだから定期的に警察に出頭するように」。しかし黄色の身分証を持っているだけで社会の風は厳しく、誰も働かせてくれない。数日間、何も食べられないままバルジャンは修道院へ向かう。彼を見たミルエル司教はバルジャンに温かい食事と寝室を与え「ゆっくり休みなさい」ともてなす。しかしバルジャンの頭の中に、「罪人はどこまでいっても罪人だ」というジャベールのことばが押し寄せ、安心できず、司教が大切にしていた銀の皿を盗んで修道院を去る。しかしすぐに捕まり修道院に連れて来られる。するとミルエル司教は「何をしていますんですか。これはわたしが差し上げた物です。」と言ってかくまう。さらに「いいですよ。その代わりに、この銀の皿と燭台を正しい人になるために使ってください。あなたはきっと正しい人になれるから」と言って渡した。バルジャンはこの時はじめて人の優しさに包まれて感動する。その後、バルジャンは時代と社会に翻弄されながらも、人を助け、与え尽くす人生に変えられていく。ミルエル司教は「正しさ」よりも「あわれみ」を選んだ。それは神の慈愛のことだ。法律や正義は時代や立場で大きく変わる。しかし神のあわれみ(慈愛)は不変で、人を造り変えていく力がある。

■愛の教え

聖書の中に、次の有名なみことばがあります。コリント人への手紙第一13章4-8節、13節

13:4 愛は寛容であり、愛は親切です。また人をねたみません。愛は自慢せず、高慢になりません。

13:5 礼儀に反することをせず、自分の利益を求めず、苛立たず、人がした悪を心に留めず、

13:6 不正を喜ばずに、真理を喜びます。

13:7 すべてを耐え、すべてを信じ、すべてを望み、すべてを忍びます。

13:8 愛は決して絶えることはありません。預言ならすたれます。異言ならやみます。知識ならすたれます。(中略)

13:13 こういうわけで、いつまでも残るのは信仰と希望と愛、これら三つです。その中で一番すぐれているのは愛です。

これは教会の結婚式で、新郎新婦に対する愛の教えとしてよく読まれます。けれどもよく読んでみると、私たちが普段思っている愛と随分違う気がします。

果たして自分は寛容だろうか。ねたまないだろうか。自慢せず高慢にならないだろうか。苛立たないないか……。みことばの一つひとつを当てはめれば、神さまの「愛」から随分遠い自分の姿が見えてきます。

一般的に「愛する」は英語でLoveです。そこには特別に「かわいがること、いつくしむこと、大切にすること」という意味がありますが、根底には自分のものにしたいた所有欲や独占欲が働いており、それが進むと支配(過保護)になります。すると、自分の思い通りにいかない場合、怒りや、もう愛せないということになりかねません。

聖書によれば、「愛」は自己愛からの解放によって始まると教えられます。実に難しいことです。自分を一番大事にする心、自分優先、自分が基準、といったセルフセンター(自己中心)の性質に気づき、そういう自分に死んでいくプロセスが、自己愛からの解放と言えます。換言すれば、私にあるのは自己愛だと気づく時、真の愛を求め始めることになるのです。

では、いったいどうしたら愛の人になれるのでしょうか。それは神さまが「あなたは変わる。変われる。」と信じてくださり、私が変わるために神さまの最も大切なものを与えて下さったことを知ることです。それが神のひとり子イエスさまです。イエスさまは神の愛のしるしです。「あなたが変わるためにイエスを心に抱いておきなさい」と言われるのです。この愛(イエスさま)を信じて受ける時、私の内に神さまの愛が豊かに発動します。神さまの愛は自己愛(求める愛)とは逆の与えて生かす愛(ギリシャ語でアガペー)です。

バルジャンは、「あなたは絶対に変われる」と信じたミルエル司教の愛(神の愛)によって、それまでの盗む人生から、自分を与え尽くす人生に変えられいきました。

私も奪う愛しか持っていませんでした。けれども神さまは、「あなたは変わる」と信じイエスさまを下さいました。それによって自分のことばかり優先し、追い求める苦しみから解放されていきました。神さまは私たちを真の愛の人にして生かしたいと願っておられます。神さまは、あなたにもイエス・キリストを与えて下さっています。受け取るか拒むのかはあなた次第。でも、あなたも神さまに信じられているのですから、神さまの愛をいただくではありませんか。

日本聖契キリスト教団
酒匂キリスト教会
牧師 勝俣慶信
〒256-0816
小田原市酒匂3-13-8
TEL 0465-47-3282

